

## 大学院入試



8月17～19日の3日間、大学院入試が行われました。なぜ盆明け早々試験をするのかと少し不思議に思いましたが…。今年は畜産資源学研究室では4回生4人が受験し、外部からの受験生はいなかったようです。1ヶ月前ぐらいから英語を中心にコツコツと勉強を重ねてきたのですが、気づけば途中から1日のメインは高校野球を見ることになっていました。球児のがんばる姿を見て自分もがんばろうとやる気もらいました。あと海に行ったりもしました。楽しかったです。他のみんなも各々のスタイルでがん

ばっていたようです。ニコニコ動画を見ながら1日中勉強している人もいれば、心配性なのかずっとヤバイヤバイと言いながらやっている人もいました。試験本番は自分を含めみんな自分の力を出し切れたと信じています。そして院試2日目と3日目の間に打ち上げをしていただきました。先生、先輩方ありがとうございました。これを書いている8月26日現在結果はまだ出ていないのでちょっと複雑な心境ですが、もう終わったことなので気長に結果を待とうと思います。みんな合格していただきたいと思います。(あんざい)



下鴨神社の盆踊り

### 目次:

広岡先生の随筆 2  
@サイエンティストゲーム

酒と泪と男とシャーマン 3  
～イブの悲劇～第1部後編

国際学会速報 3

洪水 3

京の七夕 4

夏休み 4

お知らせ 5

## 院試打ち上げ



お盆明けの火曜日、『突然なんです、明日大学院入試の打ち上げをやるんですけど、参加できますか?』と、携帯電話に連絡が入りました。英語と専門(1)(2)の試験が終わった翌18日(水)に、ふわふわお好み焼きの「わらい」で院試の打ち上げが開催されました。

翌日に面接を控えた4回生の4名は、筆記試験が終わった安堵感と、まだ安心はできないという複雑な雰囲気をかもし出していましたね。この日はちょうど中川(智)さんの就職試験合格発表もあったのですが、広岡先生から「試験の合格を祝して…」という乾杯の音が発せられると「まだ祝しちゃだめです」と、あちこちから鋭い突込みが…(^\_^;)。

お好み焼きで飲み会をするのは、畜資史上初ではないかという声もありましたが、飲み放題にサラダやおつまみも付いて、一人3000円はな

かなかお値打ちでしたね。ラマダン中のチチさんも日没後ということで、豚肉無しブースで、激辛ソースをたっぷりつけたお好み焼き&焼きそばを楽しんでいました。

今回は、飛び入り(?)で、元畜資(現在人類進化論研究室)の田島君(D1)が参加してくれました。久しぶりにオランウータンの研究や畜資に所属するかと思われたテレビ朝日のヤギ(!)アナウンサーの話が聞けて、楽しかったです。

宴の終盤では、翌日に面接を控えた受験生が広岡先生の近くに集まり、面接中にブロックサインを出してほしいなど、無理なお願いをする姿も見られましたね(^\_^;)試験前は、何かと不安なものです。

さて、4回生の皆さん、結果はいずれ出るものです。まずは試験勉強お疲れ様でした♪一足遅れの夏休みを楽しんで、来年からの研究者生活に備えてくださいね～。(ようこ)

【残暑】もう9月というのに連日暑い日が続いていますね。今年は特に。いつになったら過ごしやすい季節になるのか…。羊は相当暑いでしょうね。なんとか夏を乗り切ってもらいたいものです。ところで今年はラニーニャ現象の影響で冬は結構寒くなるかもしれないという噂を聞きました。はっきりとした四季があるのが日本の素晴らしいところだとは思いますが、あんまりはっきりされるのもどうかと思う今日この頃です。当分は暑さ対策、そして季節の変わり目には風邪をひかぬよう、体を大事にしていきたいと思います。

(あんざい)

## 好評連載 広岡先生の随筆

### ⑧サイエンティストゲームー研究者になるための生き残り戦略ー



#### 1. 修士までの戦略

大学の教員、公的研究機関や企業の研究機関の研究者は、基本的には楽しくやりがいのある仕事である。ほとんどの場合、フレキシブルタイムで時間に縛られることなく、もし、自分の興味と研究内容が一致すれば、これほど幸せな職業はない。しかも、京都大学の学生は、そもそも勉強は嫌ではないであろうし、頭も人並み以上であることはまちがいないので、京都大学に入学して、最も自分のおかれている立場と環境を有効に活用できるのは、研究者になることであろう。

しかし、研究者への道は決して平坦なものではなく、イバラの道で、生き残るにはそれ相応の努力と運が必要である。そこで、本稿は、修士までに何をすべきかについて、経験に基づいた私見を述べ、博士課程と就職における戦略は、続編で述べることにする。

まず、重要な前提は、研究が好きか、研究者になりたいかである。ここでは、研究者になりたい意志のあることを前提に話を進めて行くことにする。まず言っておきたいことは、私のこれまでの経験上、研究者になることをめざしてまじめに研究に励んだ学生のほとんどは、不思議なことに、最終的には、研究者になっている(今後は分からないが)という事実である。しかし、その一方で、自分のすべきことが分からず、大学院の時代を無駄に過ごした学生で、研究者になったものはいない。

4回生は、基本的には技術を学び、それを身につける時期である。その中には、卒業論文をまとめる技術も含まれている。私を含めて、多くの研究者にとって、後に考えれば、卒業論文は未完成で恥ずかしいものである。しかし、それにもかかわらず、卒業論文は、最も心に残る成果(作品)と言える。卒業論文を仕上げるために使った時間と努力は、いつになっても忘れられないもので、多くの研究者の原点となっている。

4回生は、研究室の中ではもっとも下っ端である。下っ端は、いつも損ばかりしていると思いがちであるが、下っ端であることのメリットは、何でも先生や先輩に聞けることである。4回生の中には、誰とも相談せず、自分で研究に関する問題を解決しようとするものがあるが、多くの場合、深みにはまって、いたずらに時間ばかりを浪費してしまい、大変な時間と労力のロスをしてしまうことになる。したがって、むしろ研究はそんなに甘いものではないと認識し、自分は初心者だと割り切って、素直に先輩に教を請うのがよい。それが、最も効率的で、賢い方法である。

修士の1回生は、つつい来年があると考え、ゆっくりしがちであるが、実は修士の1回生こそ最も勉学と研究に励むべき時期である。できれば11月までに卒業論文で行ったことを論文にまとめ、原著論文に仕上げるのが望ましい。翌年の5月には、日本学術振興会の博士課程研究者(DC)の申請書を提出する時期があり、日本学術振興会の研究員に採用されれば、博士コースに在籍しながら、月20万円以上の給料と年間100万円近くの研究費がもらえることになる(返還の義務なし)。その要件は、経験上、英語論文が1本か日本語論文が2本で、それだけあれば研究員に採用される可能性がかなり高い。11月に論文を仕上げ、雑誌に投稿しておけば、仮に論文審査に時間がかかっても、博士課程研究者(DC)の申請書を提出する時期には論文受理まで至ることが通常である。

また、修士の1回生の後半には、人生の重要な選択が迫られることになる。それは、修士で卒業して、企業の研究者になるか、博士課程に進学し、より高度な研究者への道に進むかの選択である。もっとも非常にまれであったが、以前には博士課程に進学した時点で、助教(助手)に採用されるケースもあった。また運よく公務員試験に合格し、研究所に勤務できて研究者になれることも考えられる。前者のケースは、現在はまずあり得ないことであるが、公務員試験の合格は十分考えられることなので、そのための勉強を公務員試験日まで行い、もしだめならば博士課程に進学するという選択肢はあり得ることである。公務員試験の勉強は、同じ畜産職であれば、必ずしも無駄になるとは限らないので、考えてもよい選択肢である。いずれにしても、修士の1回生の11月までに論文を仕上げおけば、そのまま研究を進めても、公務員試験の勉強をしてもよいと考えられる。また、自分の行いたい研究ができる企業の研究職に就けるのであれば、それもまた、一つの重要な選択肢と言える。

この時期は、研究者にならない学生たちが、就職活動に取り掛かるため、気が散りがちであるが、研究者になろうと決めたのであれば、決して無駄なことをしないようにすべきである。文系の学生と同様にエントリーシートの段階からスタートする学生もいるが、結果的にはまったく時間の無駄と徒労に終わることが多い。逆に、研究者以外で身を立てようとするのであれば、この時期は就職活動に全力を傾倒すべきである。不思議なことであるが、この時期に就職の道を選んでも、最終的に望んだ職を得られるのは、研究をがんばっている学生たちである。

修士の2回生は、ひたすら研究に励むべきである。理想は、修士の2年間で少なくとも論文を2本仕上げ、それらをまとめて修士論文とすることである。京都大学は、博士論文は国会図書館に寄贈されるためオフィシャルであるが、修士論文は研究室のものなので、学会に投稿した論文をまとめる程度で十分である。学生やさらには教員の中にも、修士課程の目的は修士論文を書くことと思っている人がいるようであるが、それは完全に誤った戦略である。さらに言えば、修士で書いた論文は、そのまま博士論文に入れることができるので、修士論文は原著論文の副産物程度と見なして十分である(以下、続編へ)。

広岡博之

## 酒と泪と男とシャーマン ～イブの悲劇～ 第1部後編

(Goat Bulletin vol.51からの続き)

「Three thousand.」

「…何が？」

「…OK, two thousand.」

「だから何が？」

どうやら値段交渉が始まっているようだ。2000クワチャ(約2000円)とは外人相手ということもあって法外な値段だ。しかし、黙っていると勝手に値段を下げていく、というアフリカ人の性質はあるようだ。本音をいうと私は日本ではこんな経験はできないので、いくら高くてもシャーマンの作業を見たいという気持ちでいっぱいだった。しばらく黙っていると、シャーマンは通訳のおじさんに話し始めた。おじさんによると、最初2000クワチャを払って、1週間以内にパソコンが返ってこなければ半額を返すという斬新なキャッシュバックシステム。アフリカのドラえもんはなかなか考えているな、と思いながら交渉成立。

シャーマンはおもむろに袋の中から草の束を取り出し、パソコンのあった場所に置いた。そしてなにやら呪文を唱え始めた。

「△△…×○○△…」

あるんだ、こういう世界が、現実。映画やゲームの中でしか見たことがなかった私はただただ驚くしかできず、シャーマンを見続けていた。呪文を唱えながらかばんからビンを取り出し、透明の液体を口に含んだ。おじさんに聞くとアルコールらしい。

ん？アルコール？

口に含んだアルコールを草に吹き付けた。

まさか？

シャーマンはマッチを取り出し、アルコールを吹き

付けた草に火を点けた。

「待て、勝手に人の部屋で火を点けるな。」

必死に止めようとする私を驚いた顔で見返す。

「いやいや驚くのはこっちだから。」

その間も草は勢いよく燃え続け、日本なら火事だと勘違いされるぐらいに煙が部屋いっぱいにも満たしていく。煙が部屋に満ちたところで、シャーマンは部屋の窓を開け、煙を家の外へ流していった。その煙を見つめながら、また変な呪文を唱え始めた。すでに全てを諦めた私は、煙が満ちた変な匂いがする自分の部屋で呆然としていた。

「この煙がパソコンを盗んだ人を追いかけます。そしてパソコンを主のところへ戻すように煙に伝えました。大丈夫、すぐにパソコンは戻ってきます。」

シャーマンはやり切った感満点の顔で答えた。燃えカスは1日放置して明日、土に埋めろとのこと。

最後にシャーマンは、

「You are happy, I'm happy.」

と、笑顔のまま帰っていった。

もちろん、1週間後に半額キャッシュバックしてもらいました。分割で…。



…第2部へ続く(さかい)

## 国際学会速報(AAAP)

第14回アジア・大洋州畜産学会議(AAAP)が開催されました。畜資からは、  
 "Characteristics of buffalo and cattle productions and the feed resources in mid-hill regions, Nepal" T. Sakai et al.,  
 "Palatability of food by-products in total mixed ration silage fed to fattening heifers" K. Ishida et al.,

"The relationship between energy expenditure and jaw movements of grazing cattle." Y. Nakagawa et al., (いずれもポスター)の発表を行いました。

学会の様子やスタディーツアーの情報などは、来月号をお楽しみに！



### ～学会情報～

#### 関西畜産学会

平成22年度(第60回大会)が、京都大学大学院農学研究科において開催されます。期日は、9月14・15日です。畜資からは、熊谷先生とチチさん(M2)が、研究発表を行う予定です。

#### 肉用牛研究会

第48回肉用牛研究会が、9月15・16日に京都大学農学部総合館で開催されます。

今年は、両学会が京都大学で開催されるので、皆さんのお手伝い(受付・会場係)をよろしく願います。

### 洪水

去る8月の土曜日、実験室から「シャーツ」という音が漏れ聞こえているのに気づき、部屋を覗くと、そこには驚愕の光景が待っていました。“大洪水”…水道から水が溢れ出し、実験室中を浸水させていました。そこで急遽、大石先生や院試勉強中の4回生を引き連れて排水作業を行い、何とか事なきを得ました。早期発見・人海戦術・おむつの吸水性がこの事件解決の鍵となりましたね。

(いっしー)



### 祖母と花火

お盆に帰れなかったので、先日、和歌山県にある祖父母の家に行ってきました。ちょうど近くの川で花火大会があったので、祖母と叔母たちと一緒に歩いていってきました。珍しい、水中花火も見ることができました。今年初の花火。夏の終わりにようやく見ることができてよかったです。なにより、祖母と花火を見るのは初めてだったので嬉しかったです。

(まな)



## 京の七夕

みなさん、京都では今年、8月6日から15日にかけて「京の七夕」というイベントが開催されていたのをご存知ですか？市バスや地下鉄などで広告されていましたが、普段ほぼ自転車のみで移動する研究室の人たちにはあまり知られていなかったようです。というのはさておき、たまたま市バスの中で広告を見かけた私はバッチリ楽しんできましたよ！大きく分けて、堀川会場と鴨川会場、そしていくつかの寺院でライトアップがされていたようですが、私は二条城と堀川に行ってきました。

(ちなみに堀川と鴨川を天の川に見立てているとのことですよ。)  
光る二条城は、きれ



いでもありちよっぴり不気味でもありましたが、堀川には青白く光る「祈り星」が放流され、七夕飾りやモニュメントが光に彩られてとても幻想的でしたよ～！天の川をイメージした竹のアーチもぐぐりましたが、きれいすぎてもう、ため息がもれちゃいました(\*´ω`\*)夜風が通って、平日だったので人も多すぎることなく、夏の京都を楽しめるイベントでした。浴衣美人もたくさんいらっしゃいました。来年も開かれるならぜひ足を運んでみてくださいね♪



### 夏の歳時記

世界文化遺産の下鴨神社では、春の葵祭りや土用の丑の御手洗祭など季節ごとにさまざまな行事で観光客の皆さんと私の通学路を楽しませてくれます。

下鴨神社を囲み、四季の移ろいを艶やかに映し出す糺の森でも、いろいろな催しが開催されます。お盆の頃は「納涼古本まつり」。なぜ古本で納涼なのかは謎ですが、あらゆるジャンルの古書が糺の森一面に並び賑わいます。



そして8月下旬の盆踊り大会(口絵)。大会というには、だいぶ規模の小さい盆踊り大会で、お囃子はなんと3人の男性によるアカペラでしたが、無料のお茶が配られるなどアットホームな雰囲気でした。

(ようこ)

## 夏休み

8月！世間は夏休みモードで、小中学生がイキキしていますね◎私は、いまだに就活でゼエゼエしております(\*\_\*;

さて、8月と言えば、全国高校野球の季節でもあります。普段、野球はあまり興味のない私

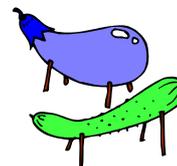


ですが、高校野球は勝敗の行方が気になります。西宮に住んでいて、甲子園球場は自転車で20分程の近さにあるので、試合開始の「アアアア～」というサイレンが聞こえることもあります！！女子高出身なので母校か出場する可能性はないのですが、やはり地元兵庫の応援に熱が入ります。今年は報徳学園が兵庫代表で出場し、順調に勝ち進み、なんと、私がもう1校応援していた、沖縄の興南高校と対決することに！！事実上の決勝戦だったと思います。結果は興南が勝利し、そのまま沖縄県勢初の優勝！！！！しかも、春夏連覇！！沖縄県は歓喜の嵐だったようです◎

興南高校が優勝旗とともに帰ったとき、沖縄県ではちょうど旧盆の時期でダブルの盛り上がりだったとのことですよ。なぜ、旧盆が盛り上がるのかと言いますと・・・、沖縄の旧盆は、新暦のお盆よりも盛大に行われ、お祭りのように盛り上がるんです。旧盆の3日間はそれぞれ、ウンケー(お迎え)・ナカヌヒー(中の日)・ウークイ(お送り)と呼びます。道路の真ん中で大綱引きがあったり、最終日のウークイの日には、エイサーの道ジュネー(ねり歩き)で太鼓を打ち鳴らし、ご先祖様をお見送りするので、夜からとても盛り上がりです。

離島に行く伝統的な踊りなど貴重なものが見られるそうですよ！！機会があれば、ぜひ異文化に触れてみてくださいね☆

(まな)



Department of Animal Husbandry  
Resources, Kyoto University,  
Faculty of Agriculture  
Oiwakekyo, Kitashirakawa,  
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも大歓迎です。下記のアドレスまでどしどし送信してください。

E-mail: [yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp](mailto:yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp)

## お知らせ

### ☆合格速報☆

今回、大学院入学試験を受験した畜産資源の4名は、無事全員合格でした！おめでとう〜♪

### 今月のイベント

8・9月生まれさんのお誕生日会を、9月下旬に開催する予定です！お楽しみに〜☆  
イベント係り

### 山羊絶食疑惑

とある週明け、日曜日の飼育当番が誰だったかわからない事態が発生していました。山羊と羊は丸1日ご飯抜きだったかも知れないのです(\*o\*)。動物たちは、文句を言うこともなければ、誰にも言いつけたりしませんが、買い食いも冷蔵庫を開けることもできません。飼育当番の仕事は、水曜日の体重測定と週末の畜舎の掃除・餌やりです。当番の人は、責任を持って仕事をしましょう。また、急に用事が入るなどどうしても都合がつかない場合は、代わりの人を見つけて間違いのないよう努めましょう！

### 研究室の動向

9月14~16日に、2本の研究会が京都大学大学院農学研究科で開催されます（3ページに詳細記事）。中国のプロジェクトがいよいよ動き出しました！9月17~24日まで、安在君が雲南省へプロジェクトチームの一行として出張、引き続き熊谷先生が20日から出張の予定です。この他、放牧班の碓牧場における調査研究や夏休みをちょっとずらしての旅行計画などもちらほら聞こえています。今月の研究室はちょっと静かなようです。OB/OGの皆さん、シルバーウィークを利用してぜひ研究室へ遊びに来てください〜！

# 2010年 9月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1 竹内・Cici・小栗 体重測定Ⓞ	2	3	4
5	6	7	8 塚原・徳山 体重測定Ⓞ	9	10	11
12	13	14	15 荒木・石田・西田 体重測定Ⓞ	16	17	18
19	20 敬老の日	21	22 酒井・中川(替)・前野 体重測定Ⓞ	23 秋分の日	24	25
26	27	28	29 柳・木村 体重測定Ⓞ	30	10/1	2

**編集後記** 近頃使われている「自由」という言葉が持つ意味は、30年前とだいぶ趣が異なっているように感じます。以前「自由」という言葉には、憧れのよなものが含まれていて、得がたく、勝ち取るものであり、いつも「責任」や「義務」という言葉と一緒に使われていたように記憶しています。最近の「自由」は当たり前で、「なんでもあり」が近くに居合わせているように思います。「やることさえやっていれば、あとは自由」と言うときの「やること」は、少なくとも「社会的視点」ではなく「自己視点」で、「自己中」でも協調性がなくても「自由だから」の一言で片付けられるのに違和感を覚えるのは、歳のせいかなあ(^\_^;)